



## 保育研究協議会を終えて

1月28日(土)に、令和4年度の大分大学附属幼稚園の保育研究協議会を終えました。県内外から多数の保育者等の参加があり、リモートを通して貴重な意見交流の場となりました。

本園から発表させていただいたのは、遊びや生活の中から見つけた数量や図形の学びであって、子ども目線に立った環境の構成や援助をいかに構築していくかが、研究の焦点でした。

参加者の感想の1位は、「数量や図形の概念形成を学べた」2位は、「環境の構成やその援助について学べた」といった結果から考察すると、手応えを十分感じた協議会となりました。

今後も、いかに園児の思いを聞き出せるのか、園児の気づきを広げる言葉かけができるのか等さらに研究を深化させたいと思います。



## 国語の授業体験

年長さんは、1月23日に幼小交流会がありました。今回は、1年生から小学校の施設を案内されたり、教室で一緒に国語の授業を体験したりして、小学校へアプローチしました。

国語の授業では、「ゆきだるま」⇒「まくら」⇒「らっこ」何か気付いたかな?と先生から問われ、段々しりとりで気付いていきました。その後みんなでしりとり遊びをして、言葉の学習を楽しむことができました。

いよいよランドセルを背負い、歩いて通学する日がそこまで来ているなと感じました。

## 「どうする」「どうしたいの」



NHK 大河ドラマ推し中年ということもあって、今年の初頭から「どうする」といった場面を切り取りながら機会あるごとに話しています。そんな視点で園生活を見てみると・・・

この日は、寒波の到来でとても寒い日でした。「足が濡れた」「寒い」と駄々をこねる子。氷をたくさん踏み割って、それでも続けている子。鬼ごっこで鬼ができなくて嘆いている子。子どもたちの行動だけでは、どうしたいのかは中々見えません。大人の考えを押し付けてしまえば、それで気持ちが納まる場合はあるのですが、それでは子どもは育ちません。どうしたらいいのでしょうか?

どうも今回の大河を見る限りでは、家康という歴史上の偉大な人物も、「どうする」ということを自問自答しながら自己実現していったようですので、まずは、「どうするの」と、聞くことにしています。